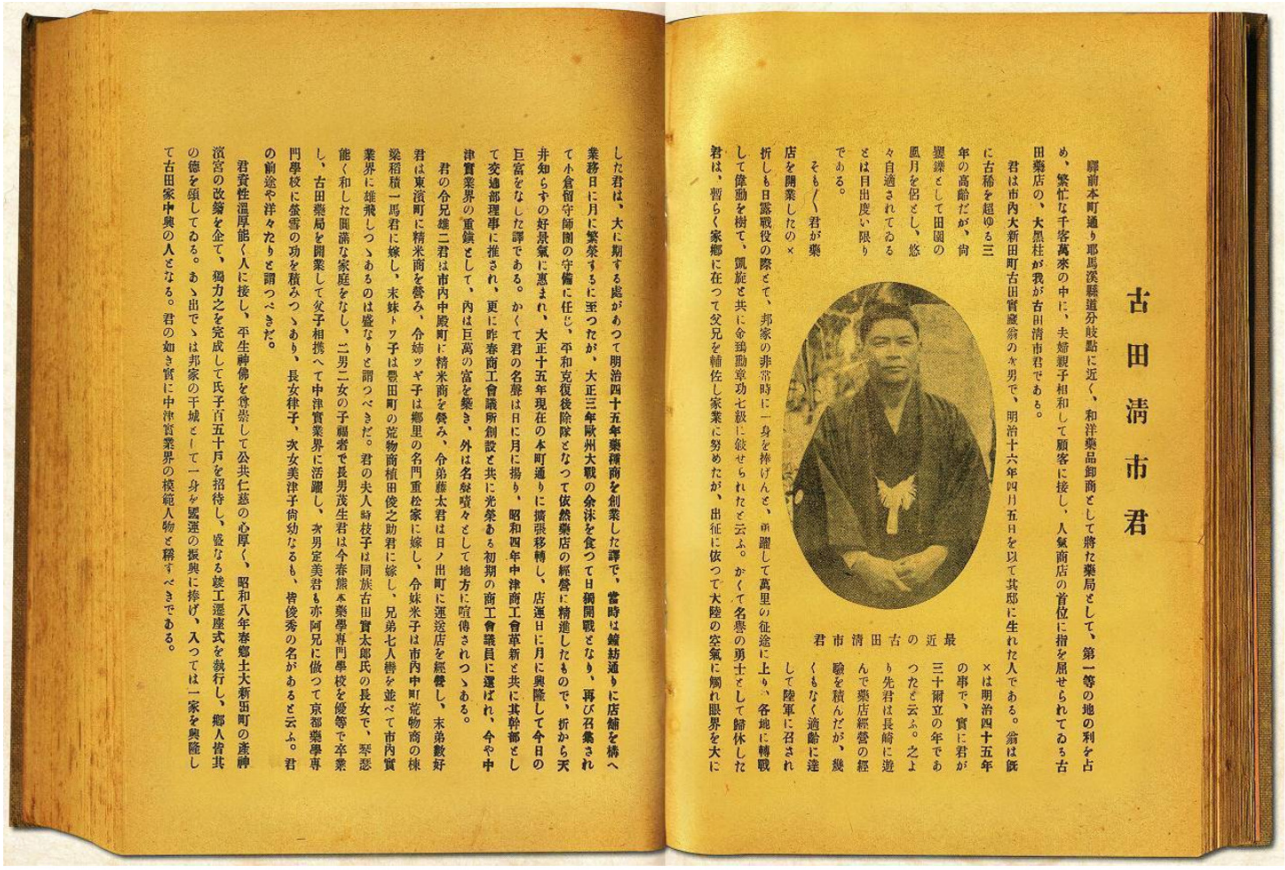
ふるた薬局の歴史

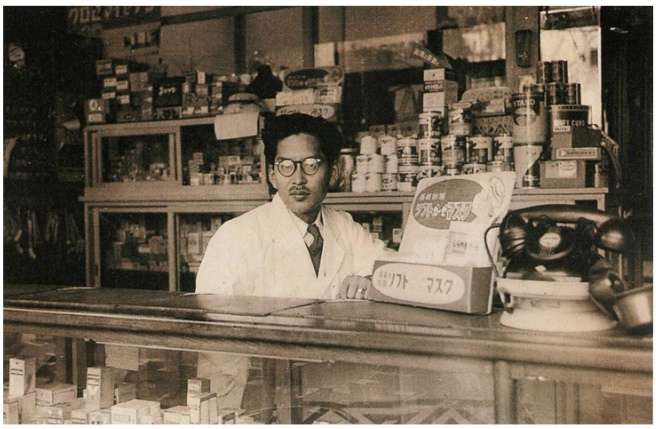
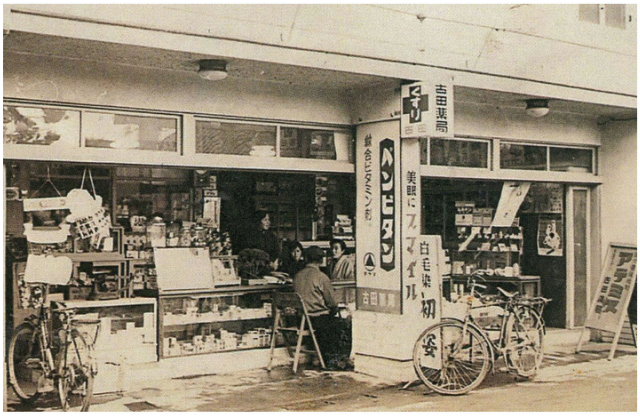


古田清市君

驛前本町通り邪馬溪縣道分岐點に近く、和洋藥品卸商として將た藥局として、第一等の地の利を占め、繁忙な千客萬來の中に、夫婦親子和和して顧客に接し、人氣商店の首位に指を屈せられてゐる古田藥店の、大黒柱が我が古田清市君である。

君は市内大新田町古田實盛翁の本男で、明治十六年四月五日を以て其邸に生れた人である。翁は既に古稀を超ゆる三×年の高齢だが、尚矍鑠として田園の風月を娯し、悠々自適されてゐるとは目出度い限りである。

そも〳〵君が藥店を開業したのは明治四十五年の事で、實に君が近三十箇立の年であつたと云ふ。之より先君は長崎に遊んで藥店經營の經驗を積んだが、幾くもなく適齢に達して陸軍に召され折しも日露戰役の際として、邦家の非常時に一身を捧げんと、亟躍して萬里の征途に上り、各地に轉戰して偉勲を樹て、凱旋と共に金鵄勲章功七級に敍せられたと云ふ。かくて名譽の勇士として歸休した君は、暫らく家郷に在つて父兄を輔佐し家業に努めたが、出征に依つて大陸の空氣に觸れ眼界を大にした君は、大に期する處があつて明治四十五年藥種商を創業した譯で、當時は鍛冶通りに店舗を構へ業務日に月に繁榮するに至つたが、大正三年歐州大戰の余沫を食つて日獨開戰となり、再び召集されて小倉留守師團の守備に任じ、平和克復後除隊となつて依然藥店の經營に精進したもので、折から天井知らずの好景氣に惠まれ、大正十五年現在の本町通りに擴張移轉し、店運日に月に興隆して今日の巨富をなした譯である。かくて君の名聲は日に月に揚り、昭和四年中津商工會革新と共に其幹部として交通部理事に推され、更に昨春商工會議所創設と共に光榮ある初期の商工會議員に選ばれ、今や中津實業界の重鎮として、内は巨萬の富を築き、外は名聲嘖々として地方に喧傳されつゝある。

君の令兄雄二君は市内中殿町に精米商を營み、令弟藤太君は日ノ出町に運送店を經營し、末弟數好君は東濱町に精米商を營み、令姉ツヤ子は郷里の名門重松家に嫁し、令妹米子は市内中町乾物商の棟梁稲積一馬君に嫁し、末妹トヲ子は豐田町の乾物商植田俊之助君に嫁し、兄弟七人樹を並べて市内實業界に雄飛しつゝあるのは盛なりと謂つべきだ。君の夫人蒔枝子は同族古田實太郎氏の長女で、琴瑟能く和した圓滿な家庭をなし、二男二女の子騏樹で長男茂生君は今春熊本藥學專門學校を優等で卒業し、古田藥局を繼業して父子相携へて中津實業界に活躍し、次男定美君も亦阿兄に倣つて京都藥學專門學校に盤雪の功を積みつゝあり、長女律子、次女美律子尚幼なるも、皆俊秀の名があると云ふ。君の前途や洋々たりと謂つべきだ。

君資性温厚能く人に接し、平生神佛を尊崇して公共仁慈の心厚く、昭和八年春郷土大新田町の蓬神宮の改築を企て、獨力之を完成して氏子百五十戸を招待し、盛なる竣工遷座式を執行し、郷人皆其の德を頌してゐる。あゝ出でゝは邦家の干城として一身を國運の振興に捧げ、入つては一家を興隆して古田家中興の人となる。君の如き實に中津實業界の模範人物と稱すべきである。